

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	日本・国際連合大学共同研究事業拠出金			担当部局庁	大臣官房国際課		作成責任者	
事業開始年度	平成7年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	大臣官房国際課		大臣官房国際課長 北山 浩士	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	-			
政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進			主要経費	その他の事項経費			
施策	13-2 国際協力の推進							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-42.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	国際連合のシンクタンクとして人類の存続・発展等に係る地球規模課題に取り組む国際連合大学について、我が国はその本部のホスト国として同大学との学術協力を推進することを通じ、世界的なアジェンダの解決に向けた貢献を示すことにより、我が国のプレゼンス向上を図る。							
現状・課題 (5行程度以内)	2030年のSDGsをはじめとした国際的な目標の達成や地球規模課題の解決に向けた取組が各国で行われている中で、世界的なネットワークを持つ国連大学との連携を通じて、我が国の国内大学の国際的な発信力の向上を図るとともに、長期的な観点から地球規模課題の解決に資する人材育成を行うことで、世界的な目標や課題に対する貢献により、我が国の国際的なプレゼンスを更に高めていく必要がある。							
事業概要 (5行程度以内)	持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向け、国際連合大学サステナビリティ高等研究所が実施する大学院プログラムやSDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)などの人材育成等への支援を通じ、持続可能な社会の構築に貢献するため、国際連合大学へ拠出する。							
事業概要URL	https://ias.unu.edu/jp/							
実施方法	その他							
補助率等	-							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算 (A)	144	144	144	135	135	
		補正予算 (B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し (C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し (D)	-	-	-	-		
		予備費等 (E)	-	-	-	-		
	計 (F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	144	144	144	135	135		
	執行額 (G)		144	144	144			
	執行率 (%) =(G)/(F)		100%	100%	100%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%) =(G)/[(A)+(B)]		100%	100%	100%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由 (・要望額・予備費)			
	(項)		国際交流・協力推進費					
		(目)	政府開発援助ユネスコ事業等拠出金	135				135
			その他					
	計 (A)		135	135				

活動内容① (アクティビティ)		サステイナビリティに関する地球規模での取組を牽引する次世代の政策立案者や研究者を輩出するため、国際連合大学に抛出し、サステイナビリティ学の大学院プログラムを支援する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		国際社会での活躍が期待されるサステイナビリティ分野の人材の養成	大学院プログラムの実施数	活動実績	プログラム	1	1	1	-	-
				当初見込み	プログラム	1	1	1	1	1
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	地球規模課題解決に資する人材養成のために、まずは本大学院プログラムの修了生を適切に輩出することが重要であるため、修了生数を短期アウトカムとして設定する。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		本大学院プログラムを修了した学生数	本事業における大学院プログラムでの修了学生数を10名/年以上とすること。	成果実績	人	13	13	12	-	
				目標値	人	10	10	10	10	
				達成度	%	130	130	120	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	日本にある国連大学の大学院を修了した人材が公的機関及び国際機関の職員や研究者として活躍することは、国際的な地球規模課題の解決やSDGsの目標達成等に資するとともに、出身地域の親日層の拡大等に貢献すると考えられるため長期アウトカムとして設定する。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		本事業における大学院プログラムでの修了学生数の内、公的機関及び国際機関又は大学等での研究者として就職する学生の定着。	公的機関及び国際機関又は大学等での研究者としての就職者数を3人/年以上とすること。	成果実績	人	-	-	4	-	
				目標値	人	-	-	3	3	
				達成度	%	-	-	133.3	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容② (アクティビティ)		国際連合大学がハブとなり、日本国内の大学がSDGsの取組を強化するとともに国内外に発信するために連携する場を提供できるよう、国際連合大学に拠出し、SDG大学連携(SDG-UP)の開催・運営を支援する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		SDG-UPによる大学間連携の取組を促進する。	SDG-UPのワークショップ、シンポジウム開催回数	活動実績	回	6	9	8	-	-
				当初見込み	回	6	9	8	8	8
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	SDG大学連携(SDG-UP)を通じて得られた知見や最新動向等について広く国内外に発信し、取組が認知されることで、関係者の関心や国際的なプレゼンスの向上が見込まれるため、SDG-UPのWebサイトへのアクセス数を短期アウトカムとして設定する。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		SDG-UPの取組の発信力の向上	アクセス件数3,000件/年以上	成果実績	件	-	-	3,712	-	
				目標値	件	-	-	3,000	-	
				達成度	%	-	-	123.7	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	本プラットフォームへの参加大学が増加することで、SDGsの取組における国連大学をハブとした国内大学の連携拡大および各大学における学術活動の活性化により、我が国のSDGsに関する国際的なプレゼンスの向上が期待されることから、参加大学数を長期アウトカムに設定する。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		国内の大学にSDG-UPの活動が広がり、SDGs達成に向けた大学間連携が拡大すること。	SDG-UPへの参加大学数	成果実績	大学数	28	31	32	-	
				目標値	大学数	25	28	31	-	
				達成度	%	112	110.7	103.2	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容③ (アクティビティ)		日本の大学院生を対象に、地球規模課題の意識を高めることを目的に、国内外の著名な専門家の講演やグループ討論を通じて交流するグローバルセミナーを国際連合大学に拠出して支援する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		日本の大学院生等の地球規模課題についての知見を深めること。	地球規模課題についての知見を深めるグローバルセミナーの開催数	活動実績	回	1	1	1	-	-
				当初見込み	回	1	1	1	1	1
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	本セミナーの成果が国内外の多くの受講者のキャリアにおいて活用されるために、本セミナーの効果が広く波及することが重要であるため、本セミナーへの参加者数の増加を短期アウトカムに設定する。								
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		グローバル・セミナーを通じて、国連の役割や人類が直面している地球規模の問題について、広く問題意識を向上させる。	セミナーへの参加者数50人/年以上	成果実績	人	-	-	30	-	
				目標値	人	-	-	50	-	
				達成度	%	-	-	60	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	本セミナーの質が向上することで、参加者が有益な知見を獲得し、その知見等を今後のキャリアに活用することに期待できることから、セミナーのアンケート結果による満足度の割合を長期アウトカムとして設定する。								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		グローバル・セミナーにおいて、より多くの参加者が満足感を得ること。	セミナー参加者のうち、満足度が高かった参加者の割合	成果実績	%	89	98	94	-	
				目標値	%	90	90	90	-	
				達成度	%	98.9	108.9	104.4	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容④ (アクティビティ)		UNU-IASと日本の大学等学術機関等が連携し、両者の強みを生かし、カーボンニュートラルをはじめとするSDGsの達成に向けた国際協カプロジェクトを支援する。									
↓											
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		共同プロジェクトが適切に実施される	2件/年以上	活動実績	件	-	-	2	-	-	
				当初見込み	件	-	-	2	2	-	
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	成果報告会による発表及び評価を通じて、各プロジェクトの質の向上を図るとともに、プロジェクトの成果を広く周知することで、途上国を中心とした地球規模課題の解決に貢献するため、成果報告会の開催実績を短期アウトカムとして設定する。									
成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		
		成果報告会を通じた、各プロジェクトの適切な実施及び評価	10回/年以上	成果実績	回	-	-	10	-		
				目標値	回	-	-	10	-		
				達成度	%	-	-	100	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供									
↓	成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	本プロジェクトの研究成果の国際的な波及や、各大学における関連分野の調査研究活動の活性化を通じて、地球規模課題に対する我が国の貢献を示し、国際的なプレゼンスの向上に資することから、本プロジェクトを通じた論文発表数を長期アウトカムとして設定する。									
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度		
		各プロジェクトの成果が広く波及するとともに、実施大学の発展に資する。	本事業における研究成果としての論文発表(記事発表を含む)数10本/年以上	成果実績	件	-	-	11	-		
				目標値	件	-	-	10	-		
				達成度	%	-	-	110	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国際連合大学によるデータ提供									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由									
		-									
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由									
		-									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	-									
	URL	-									
	該当箇所	-									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)

文部科学省
144百万円

A. 国際連合大学
144百万円

持続可能な開発目標(SDGs)達成に向け、国際連合大学サステナビリティ高等研究所が実施する大学院プログラムやSDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)などの人材育成等への支援を通じ、持続可能な社会の構築に貢献するため、国際連合大学へ拠出する。

費目・使途

(「資金の流れ」において
ブロックごとに最大の金
額が支出されている者
について記載する。費目
と用途の双方で実情が
分かるように記載)

A.

費 目

使 途

金額
(百万円)

抛出金

国連大学への拠出金

144

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国際連合大学	-	国際連合大学への拠出金	144	その他	-	-	-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	